

【第3号議案】

平成29年度事業計画書

平成29年4月1日～平成30年3月31日

特定非営利活動法人 ザ・ピープル

1. 事業の目標

平成29年度については、本会が現在置かれている社会状況を踏まえ、以下のような重点目標を掲げ、事業の推進に法人全体として取り組んでいくことを計画している。

(1) 古着リサイクル事業の地域内循環に向けたビジネス性の確立

今年度新しくオープンした久之浜地区の津波被災エリアの商業施設「浜風きらら」に出店。地域内で衣料品を購入する場に恵まれないとの地域住民の不満を解消し、地域コミュニティの核としての機能を持てるようにする。

また、エコウールリサイクルの搬出作業工程を見直し、1月あたりの反毛工程に搬出できる古着量を1.5倍に増やすことで、倉庫の使用利便性を高める。

(2) 日本チャリティーショップ・ネットワーク内での活動の連携促進

参画団体間の情報共有に協力するとともに、ネットワーク参画団体としての事業内容の充実に努める。

(3) 古着を素材とするリメイク品・反毛手法を生かした手工芸品による事業展開の促進

お直し価格設定の見直し。布ぞうり教室等の啓発事業の充実。

(4) 海外の団体とつなぐ活動の展開

昨年度から開始されたミクロネシアの非電化地域に対する技術供与支援事業（いわきおてんとSUN企業組合による技術供与）を継続実施するための事業費確保を行い、現地の期待に応えた事業実施を行う。また、タイ国ナーン県の少数民族貧困家庭への奨学金供与を大学卒業した奨学生とともに開始する。

(5) 東日本大震災後の復興支援にかかる諸事業実施

① 小名浜地区復興支援ボランティアセンター運営とそれに伴う諸事業

● 復興庁「心の復興事業」 みんなの畑野菜で共に饗する生きがい交流プロジェクト

(採択済み)

本法人では、平成28年度、震災後の活動の検証作業を実施。本法人が震災後運営している「いわき市小名浜地区復興支援ボランティアセンター」を拠点として進めてきた被災者・避難者支援のための取り組みの見直しを行ってきた。この検証作業の結果として、上記のような地域課題と本法人の活動の特性を活かした事業運営の方向を確認した。本事業では、それを受け、農業や食をツールとして活用することでの生きがい創出に重点を置くこととした。具体的には、原発避難者が本法人の主催する「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」に参加する中で自主的に活動をスタートさせた「みんなの畑菜園」での野菜栽培によって得られる収穫物を、交流の素材として活用するというものである。(詳細別紙)

● 福島県ふるさとふくしま交流・相談支援事業補助金（県内避難者・帰還者支援事業）

福島県いわき市を中心とした「置き去りゼロ」チャレンジ事業 STEP2

（採択済み）

本法人では、昨年度本事業のSTEP1として震災後の活動を検証する事業を実施。本法人が震災後直接運営しているいわき市小名浜地区復興支援ボランティアセンターを拠点として実施してきたコミュニティ再生のための方策の再評価と今後の取り組みの方向性の確認を行ってきた。この検証作業の結果として得られた地域課題認識と本法人の地域に根ざした活動歴の長さや交流事業の運営力の高さといった強みを考慮。小名浜地区復興支援ボランティアセンターのもつ地域内外をつなぐ機能を生かしつつ、「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」をツールとして活用しながら様々な立場の人々にアプローチをし、誰も「置き去りにされた」と感じる事のない社会づくりを進める。

また、そのターゲットを以下の4つに大きく分類した上で、そのそれぞれに対するアプローチを組み合わせることで、それぞれ異なる立場にある人々が交流の中でそれぞれに生きがいを見出し合い、相乗効果をあげることが可能になると考える。

1. いわき市内において避難生活を継続することを決意した原発避難者×その周辺に住むいわき市民の地震・津波被災者×地域住民⇒避難先（いわき市内）で繋がる
2. 市・町の帰還宣言に伴い帰還した帰還住民×避難生活継続を決意した避難者⇒帰還地（相双地区）で繋がる
3. 県外避難から帰還を計画する自主避難者×帰還先地域住民⇒故郷（相双地区）で繋がる
4. 震災体験の風化と福島に対するマイナスイメージが固定化している福島県外の一般住民×福島県民⇒どこ（いわき市内や相双地区のコットン畑・県内外や都内のイベント会場）でも繋がる（詳細別紙）

② 「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」運営によるいわきの農業活性化

及びオーガニックコットン製品開発に関する取り組み

● 地球環境基金助成事業

福島浜通りでの帰還を後押し コットンベルト実現化事業（採択済み）

コットン栽培を通して福島県浜通り地域（いわき市・双葉郡内の避難解除地域・南相馬市）の農業再生に向けた取り組みを一層前に進める。重点ポイントは以下の通り。

- 1) 避難地域で住民の帰還が進もうとしている現在の状況を踏まえ、帰還後の住民の手によるコットン栽培を通して、帰還を後押しできる地域の魅力づくりに取り組む。この中では、広野町での取り組みでの経験を活かし、帰還住民の中に栽培の主体となり得る人材育成とその組織化を目指す。
- 2) 避難先であるいわき市から帰還しないことを決断した避難者たちにとって、コットン栽培を通して避難元市町村との帰還する・しないに拘らない新たな繋がり（の形）を生み出す。
- 3) 福島県浜通りにおける有機農法でのコットン栽培を点から線、線から面へとつなぐことで、復興のシンボルとして定着させ、「コットンベルト」として地域を跨ぐ共通の価値の創造に繋げる。

- 4) 風評被害払拭の意味合いも含め、コットンベルトへの首都圏からの農業体験希望者を呼び込む仕掛けを先進事例に学びながら形作り、都市農村交流の事例として事業化を目指す。
- 5) この取り組み2年目となる2018年に、全国コットンサミットをこの取り組みの中心であるいわき市において開催し、長い原発事故からの福島県浜通りの地域再生に向けた道のりと、その中でオーガニックコットン栽培が果たす役割を広く全国レベルでアピールする。そのために準備に入る。

③ フードバンク事業

「いわき市民の中に東日本大震災の被災者はもういない」と評されるように、震災から7年目に入っている現在、地域課題は刻々と変容している。そうした中であって、小名浜地区復興支援ボランティアセンターが地域内で果たすべき役割とセンターの特性について、昨年度の検証作業の成果として一定の方向性が見えてきた。今年度は、本会の有する活動特性を生かしつつ地域課題解決に向けて機能できる形として、フードバンクの設立を念頭に置き、研修機会を持つ。また、実際に施設整備が必要と確認できた時点で施設整備と事業計画の策定に入る。

④ NPO 法人みんぷくとの連携による事業

NPO 法人みんぷくの副理事長を本会理事長が兼務することから、双方の組織の不足する部分を補完しあえる関係を築く。

⑤ 被災体験に基づく情報発信に関する事業と若者に対する復興に対する意識啓発を目的とする事業

⑥ その他被災者支援のために有効と考えられる事業

(6) 本会活動の拠点整備事業

これまでの事務所・店舗が入居していたタウンモールリスポが今年度中に閉館することが決定したことから、事務所並びに店舗機能を継続できる場として、これまで小名浜地区復興支援ボランティアセンターを設置していた敷地での整備を決定。地主である株式会社マルトとの10年間の定期借地契約を正式に交わし、具体的な準備に入る。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に関する事業

定款の事業名	事業内容	(A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	支出額 (千円)
古着リサイクル関連事業	古着回収・仕分け等リサイクル基盤事業	(A)常時 (B)いわき市内各リサイクルボックス いわき市小名浜志賀倉庫 (C)10名×20日×12月	(D)一般市民ならびに全国の賛同者 (E)不特定	7,500
	エコウルリサイクル事業およびリメイク品製作販売事業	(A)発送準備および反毛加工常時 発送：毎月2回 (B)いわき市内小名浜ファイバーリサイクル倉庫 (C)発送：1名×24回	(D)一般市民ならびに全国の賛同者 (E)不特定	6,000
	常設・臨時バザー出店事業 久之浜地区への出店を含む	(A)常時 (B)いわき市内PCC各店・イベント会場 (C)常設バザー60名	(D)一般市民 (E)不特定	10,000
	チャリティショップネットワーク参画事業	(A)年4回程度 (B)都内 (C)1,2名	(D)各店舗スタッフ (E)30名	40
在宅障がい者自立支援事業	バザー用古着・ウエス材提供事業	(A)常時 (B)いわき市内小名浜仕分場 (C)10名	(D)いわき市内障がい者関連施設 (E)25名	40
海外生活支援・海外教育支援事業	タイにおける支援事業・ミクロネシアに対する支援事業	(A)10月・12月 (B)タイ国ナーン県・ミクロネシア (C)1名	(D)ナーン県チュムチョムシラレーン中学校生徒・ザビエル高校および離島住民 (E)少数民族100名・ザビエル高校生50名ほか	10,000
情報発信事業	会報発行・HP管理・エコプロダクツ展出展	(A)会報：4回・HP：常時／出展：12月 (B)会報・HP：事務局／出展：東京都江東	(D)一般市民・首都圏民 (E)不特定	350

		区 (C)会報各号4名/出 展:4名		
ワークショ ップ・講演 会・市民啓発 事業	ワークショップ・講 演会事業	(A)未定 (B)未定 (C)未定	(D)一般市民 (E)不特定	0
ボランティ ア活動体 験・研修受入 れ事業	いわきアカデミア事 業いわき発見ゼミ受 け入れ	(A)7月・12月 (B)いわき市内コッ トン畑 (C)各回4名	(D)いわき市内高校 生 (E)80名	0
関係団体と の交流・連 携・協力事業	いわき市民間国際交 流・協力団体連絡会 事務局業務	(A)常時 (B)事務局 (C)2名	(D)いわき市内国際 交流・協力関係団体 (E)10団体	0
被災者支援 に関する事 業	東日本大震災救援・ 復興支援事業 小名浜地区復興支援 ボランティアセンタ ー運營業務	(A)常時 (B)事務局・小名浜地 区復興支援ボランテ ィアセンター等 (C)専門スタッフ2 名・ボランティア2名	(D)東日本大震災被 災者並びに地域住 民・首都圏からの視 察客 (E)不特定	6,500
第一次産業 の活性化に 関する事業	いわきオーガニック コットンプロジェク ト関連事業	(A)常時 (B)事務局・小名浜 地区復興支援ボラン ティアセンター・市内 での綿花栽培地等 (C)専門スタッフ4 名・ボランティア等30 名	(D)市内農業従事 者・原発関連の避難 者・首都圏からのボ ランティア希望者 (E)2000名	5,000
その他の事 業	本会活動推進のため に必要な事業			200

(2) その他の事業

定款の事業 名	事業内容	(A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範 囲 (E)人数	支出額 (円)
会員研修 会・研修旅行 の開催	研修会	(A)未定 (B)未定 (C)未定	(D)ボランティアス タッフおよび会員 (E)未定	0